

## メタに問いたい革新と責任

米フェイスブックがメタ・プラットフォームフォームズに社名を変更した。巨大な仮想空間を意味する「メタバース」に事業の軸足を移すことを示す狙いだという。

インターネットの新しい形を模索する動きとして期待するのと同じに、新生メタには引き続きプラ

ットフォーマーとしての社会的責任を果たすよう求めたい。

メタバースでは仮想空間で人々が経済活動をしたり遊んだりする。自分に似せた「アバター」と

言われるキャラクターを使い会議をすることもでき、働き方改革につながるも期待されている。

ネット空間が「画面を見るもの」から「入り込むもの」になるといえる。新たな経済圏を生み出すイノベーションとしての期待は大きい。仮想現実（VR）のヘッドセットなどハード機器もさることながら、仮想空間でデジタル製品を売り買いするなど新しい消費の形も生まれるだろう。

2004年に創業した旧フェイスブックにとって経営上の最大の転換点となるが、期待ばかりとはいかない。SNS（交流サイト）で露呈した数々の課題は、巨大仮想空間にも持ち越されると考えられるからだ。

同社はSNSが与える中毒性と有害性を認識しながら放置していたとの内部告発を受けたばかり。

アバターによって匿名性が増せば、誹謗（ひぼう）中傷やデマの拡散といったSNSの闇の部分が一層大きくなる恐れがある。

16年には大量の個人データが米大統領選に不正使用された。個人情報 の適切な利用やプライバシーの保護は、メタバースでも事業の大前提となると再認識してもらいたい。プラットフォームが問われる優越的地位の乱用にも、引き続き注意する必要がある。

仮想経済圏では、デジタル通貨が資金洗浄に利用されないかといった新しい課題も生まれる。技術革新を妨げない程度にどのような規制を課すべきか。そのバランスについては官民を挙げた活発な議論を待ちたい。